



登録医ニュース

絆きずな

登録医療機関(7月現在)

174 施設 199 名の先生方にご登録いただいております。



[病 院 の 理 念]

本院は、地域社会における中核的な先進医療保健施設として、地域医療の充実と国民保健の向上に貢献します。

[病 院 の 基 本 方 針]

1. 急性期医療を担う地域の中核病院として、安全かつ良質な医療を行うために、適切な説明と同意に基づいたチーム医療を推進します。
2. 地域の医療・介護福祉施設と連携を図りながら高齢者にも対応できる幅広い医療を提供します。
3. 個人情報厳格に保護し、診療内容に関しては真実説明で対応します。
4. 全職員が自己研鑽に励みながら一丸となって地域医療に取り組みます。



ご挨拶

あさくら とおる
院長 朝倉 徹

登録医の先生方には日ごろから当院が大変お世話になっております。

例年冬に開催していた連携の集いが出来ずにいましたが、8月1日に名取駅に隣接したサッポロビール園にて、納涼会を実施させていただきました。私が当院に着任してから、常々ここでビールパーティーを開催したいと思っておりましたので、この夏の猛暑を乗り切るためにも思い切ってこうした会にさせていただきました。登録医の先生方にも多数のご参列を賜り感謝申し上げます。

21世紀に入ってから世界秩序が変化しているように感じます。中東紛争と過激派のテロ活動はもとより、経済発展を遂げた中国の習国家主席は一带一路構想という言葉ば帝国主義に走り、米国もトランプ政権誕生以降、内向きなご都合主義がまかり通り、各国との軋轢を引き起こしております。また欧州でも Brexit から始まり、各国で排他的は極右政党の台頭が目立ち、EU の結束が危ぶまれつつある状態です。

日本も例外ではありません。Pax americana が既に過去の遺産となった今、安全保障は自ら考える必要が生じました。中国の海洋進出や北朝鮮の核暴走に歯止めをするべく米韓と備えるはずが、隣国韓国は文在寅政権となってから経済政策など内政の失敗を、外交問題にすり替え、国民の反日感情を煽っています。また中国、ロシアは米韓の亀裂に乗じて朝鮮半島の支配を虎視眈々と狙っております。

このように日本を取り巻く国際情勢が危機的に International Engine of the Year になってきた今、経済面でも多くの懸念が生じており、国債の暴落リスクも増すなど将来の不安は尽きません。

さて国内の医療問題で注視すべきは現在整備途上にある地域医療構想の実現に向けて、厚労省が本腰で動き出したことでしょうか。同省が議論を委ねたワーキンググループがそろそろ提言をまとめる時期が近づいております。この WG は民間医療機関の代弁者が多く入っており、当院など公的病院を標的にした、急性期病床の削減、転換や病院の統廃合計画を策定する可能性が高いとされております。当院としては地域に必要な医療を提供することがすべてであり、そのために全力を上げるのみです。

第5回 “納涼”連携の集い開催報告

令和元年8月1日(木)サッポロビール仙台ビール園にて第5回 “納涼”連携の集いを開催いたしました。名取市医師会会長:丹野尚昭先生よりご挨拶、仙台市医師会太白ブロック代表幹事:今村幹雄先生に乾杯のご発声をいただき、会は和やかにスタートいたしました。当日は猛暑の中、地域の先生方はじめ、連携スタッフの方にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。職員一同感謝申し上げます。これからも地域連携を大切に、少しでもお役に立てるよう頑張っておりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



診療科紹介

内科 診療部長 原 右

連携医療機関の先生方におかれましては、いつも貴重な症例を御紹介頂きありがとうございます。誠に感謝申し上げます。

JCHO 仙台南病院の内科診療は、消化器内視鏡を軸とした上下部消化管疾患、胆道系・膵疾患、及び慢性肝炎や肝硬変・肝腫瘍等の肝臓疾患の診断・治療を得意としております。朝倉徹院長を筆頭に、木村信明・原右・木皿典宏・佐々木公美子・宮澤輝子・齊藤理恵・田母神宏之・大友泰裕の9人に健診センター所属の渡邊順子を加え10人で内科全般に対応してまいります。

手術適応の胃癌・大腸癌の診断・内視鏡的処置はもとより、内視鏡的大腸ポリープ切除は平成30年度で182例施行されました。昨年より、東北大学病院消化器内科のサポートを頂きながら胃および大腸のESD治療を開始しております。総胆管結石切石術29例・胆道ドレナージ術(ERBD・ENBD)19例・胆道金属ステント留置術4例など胆道系内視鏡的治療を積極的に行っております。肝疾患も、従来のウイルス性肝炎だけでなくアルコールやNASHなどの生活習慣に関連する肝硬変・肝臓癌の患者も増えており、それらに対応する体制となっております。

糖尿病についても、SGLT2阻害剤やGLP-1製剤など多様化する内服薬やインスリンの使い方に対して、本院自慢の療養師・栄養士・薬剤師の継続的な指導が効果を上げております。

また、本院の栄養指導のみの依頼も受け付けており、昨年度はDM・HT・CKDなど6件の栄養指導の御依頼を頂きました。

本院専門外来において、混雑のため待ち時間が生じて患者様に迷惑をかけてしまう事例が生じています。初診の紹介患者さんは問診や検査に時間がかかることが多いため、待ち時間解消のため来院時間を調整させていただいております。紹介状については前もってFAXにて当院地域連携室に御送信いただくとありがたいと考えております。

昨年は内科で1,138例の紹介を頂き406名の入院診療に携わらせて頂きました。本院の運営は連携の先生方に支えられていることの証左と考えます。引き続きの御支援をよろしくお願い申し上げます。

循環器科 診療部長 秋野 能久

地域の先生方には、いつも大変お世話になっております。

社会保険病院より JCHO に移行するにあたって、循環器科も多少の変更を強いられたことは致し方のないことでした。

現在、当院循環器科は常勤 1 名、非常勤 7 名にて地域の循環器科疾患に対応しております。東北医科薬科大学病院循環器科、仙台市立病院循環器科、東北大学病院心臓血管外科に応援を仰ぎつつ、心不全・肺炎・心臓リハビリテーションを中心に診療を行っております。

平成 30 年度は心臓カテーテル検査 136 件、ペースメーカー移植術 15 件、心臓エコー検査 2226 件、冠動脈 CT 検査 49 件、睡眠時無呼吸症候群検査 36 件の検査を行ないました。

開業医の先生方との連携については、諸先生の診療時間はカバーできるように努めております。土日休日は当直医が最初に対応しますが、循環器科医がオンコールで待機しておりますので、是非ご紹介ください。

近年の肺血栓塞栓症、下肢静脈血栓症に多くの治験が集まり治療も進んでおりますが、当科でもそれに十分対応できるように体制を整えております。

外科 診療部長 原田 昭彦

JCHO 仙台南病院の外科は、外傷、熱傷、褥瘡などの一般外科疾患から、消化器、乳腺疾患の手術、それに続く癌の化学療法、緩和ケアまで幅広く診療しております。特に消化器疾患については、充実した消化器内科との緊密な連携のもと手術を行っております。

手術治療は、胆嚢摘出、虫垂切除、鼠径ヘルニア、大腸切除などの消化器手術は、腹腔鏡手術をメインにしています。平成 30 年の手術総数は 242 例で、1 週間あたり 4~5 例行っていることとなります。肝臓癌、胆管癌、膵臓癌など肝胆膵の悪性疾患に対しての高難度手術とされる膵頭十二指腸切除術、肝切除術等も少ないながら行っており、大きな合併症なく元気に退院されております。

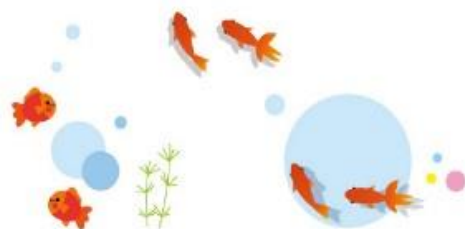
一般外科として、時に開業の先生方もお困りであるかもしれない褥瘡については、皮膚排泄ケア認定看護師（WOC 認定看護師）とともに、多くの症例を診察しております。また NST とともにラウンドやミーティングを行い、治療させていただいております。化学療法については、術後化学療法のみならず、高度進行癌の術前化学療法や切除不能あるいは再発した癌に対しても、外来通院（化学療法室）、または入院治療も行っております。緩和ケアについては、癌性疼痛をはじめ様々な身体症状の緩和を積極的に行っております。患者さんが「自分らしく」過ごせるよう、身体のみならず心の面からも支援できるよう努めています。

最後になりましたが、外科のスタッフは副院長の遠藤公人、原田昭彦、佐藤学、四條正浩の 4 人で、フットワークよく、日々診療を行っております。先生方には、困ったり悩んだり、「これは外科に紹介しても良いのか」という症例でも何でも構いませんので、まずは地域連携室まで御連絡いただければと存じます。

これからも地域の先生方、患者さんから信頼され続ける外科を目指して参ります。宜しく願い申し上げます。



診療科紹介は“納涼”連携の集いでお配りした資料の内容となっております。



整形外科 診療部長 後藤 昌子

リハビリテーション科診療部長 菅野 敦子

当科では、四肢・脊椎の外傷から、変性疾患も含め、整形外科一般としての診療を行っており、なかでも肩関節、股関節、足部に関しては、より専門的に診療を行っています。

また、当科では小児整形外科診療、骨粗鬆症診療も特筆すべき分野です。

関節が痛い、動きの制限がある、使い辛い、背中が丸くなった、あし(脚)の彎曲が目立つ等々ありましたら、外傷・非外傷問わずにご紹介いただきますと幸いです。検診や四肢の身障診断も対応可能ですので、地域連携室でご予約ください。

整形外科医は2名のみですが、二人とも専門医で、新生児から超高齢者まで幅広く診ております。年齢による変化（発達や加齢性変化、障害など）や生活状況、合併症も考慮し、より良い生活を過ごせる様に、診断し、治療を行います。治療は、保存療法では、生活指導、内服や注射、装具治療を行い、手術療法も適宜検討いたします。

さらに予防、リハビリテーションや介護についても指導、助言を行っております。

当科外来は、全国でも珍しい女性医師のみの勤務で、看護師も担当事務も全て女性、という体制で日々の診療を行っています。スタッフ皆で、優しく、にこやかに、でもお話しははっきりと、元気に、というモットーで、フットワーク良く毎日の外来を運営しております。

整形外科分野も各病院で専門性が分かれてきており、当科で検査や治療が全て可能ではありませんが、病病連携は確立しておりますので、まずはご相談、ご紹介いただければ、患者さんに最適なことを考えたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

泌尿器科 診療部長 稲葉 康雄

地域の先生方には、平素大変お世話になっております。

2025年問題、超高齢社会と言われておりますが、当科通院の患者様も殆どが高齢者で、加齢に伴う重症の併存症が増加しております。排尿障害の患者様でも、当科に通院の患者様全員の重要な併存症を見逃さないことを目標に他科医師とも連携して、当院全科総動員で診療しております。

最近の当科診療実績ですが、河北新報社の統計、「宮城の医療と健康 2016～2017 宮城県内 45 病院 108 の病気別、手術数+処置数ランキング」では、上部尿路疾患：26 例で県内 7 位、前立腺の悪性腫瘍：47 例で 12 位、膀胱腫瘍：11 例で 15 位、腎臓または尿路の感染症：58 例で 18 位、という成績でした。

平成30年度の手術数は109例で、外来手術が66例、手術部手術が43例でした。外来手術は、尿管ステント、腎瘻、膀胱結石等で、手術部手術は約7割が経尿道的前立腺切除術でした。

当院泌尿器科は、常勤医師一名のみで特別な医療機器などもございませんが、ステップの軽い優秀なスタッフが揃っております。

当院にはまだまだ余裕がございますので、ウロかなあとと思われる症例であれば、何でもお気軽にご相談、ご紹介頂ければと存じますので、宜しくお願い申し上げます。



発行 独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台南病院

仙台市太白区中田町字前沖 143 番地 代表TEL022-306-1711・FAX022-306-1712

地域連携室 直通TEL022-306-1740・FAX022-306-1741